



森のなかま

2024年 7月号
NO. 193 (継続338号)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp> 発行人 黒川 敏史
〒243-0018 厚木市中町2丁目13番14号・サンシャインビル6階604号 TEL046-297-0301・Fax046-297-0302

緑の祭典“かながわ未来の森づくり”2024 in さがみはら ～相模原市市制施行70周年記念植樹祭～

日時：令和6年5月26日(日) 8:30～16:00 晴れ

場所：相模原市相模原中央緑地(相模原市)

主催：神奈川県、相模原市、(公財)かながわトラストみどり財団

運営：県民との協働による森林づくり実行委員会

協賛：神奈川県森林協会、神奈川県みどり会、国土緑化推進機構

協力：もりかみ協議会、神奈川柑橘果工株式会社、一般社団法人神奈川県木造住宅協会、
相模原市まち・みどり公社、相模原造園協同組合、SC 相模原

看護師：青木様

インストラクター：L 小林^⑩、SL 内野^⑨、SL 柏倉^④、菊地^①、佐藤^⑤、安部^⑤、滝澤^⑤、相馬^⑤、女川^⑨、辻村^⑨、山下^⑩、山口^⑩、
湯浅^⑩、松石^⑬、斎藤^⑬、牧石^⑭、西岡^⑭、野村^⑭、黒川^⑭、相澤^⑮、石垣^⑮、飛田^⑮、河西^⑮、堀口^⑯、大森^⑯、岡村^⑯、祐谷^⑯、
池田^⑯、久慈^⑯、松浦^⑯、大友^⑯、小俣^⑰、大谷^⑰、森本^⑰、高谷^⑰、野口^⑰、池尻^⑰、小国^⑰、藤田^⑰ (39名)

参加者：420名

「植樹祭」は平成22年に開催された第61回全国植樹祭から14年目を迎えるなか、神奈川県の森林再生の一環として、相模原市市制70周年も兼ねて開催された。森林インストラクター39名は、「植樹祭」「自然観察会」「丸太切り会」に配置され、下見会で念入りな準備を行い、当日は7:30に集合後ミーティングを行い、植樹会場に10名ずつスタンバイした。8:30から最初に小中学生を案内した後、参加受付、植樹会場に誘導した。その間中央広場では式典がおこなわれた。丸太切り会は、中央広場近くで各参加ブースに並んで実施。昼食後「自然観察会」インストラクターは2名ペアになり、12:30から参加希望者5～6名毎に出発。中央広場をスタートし、コブシ広場・イヌシデ広場を経由する公園内のポイントを堪能できるコースを案内し、16組82名を案内した。時間管理、落枝等の頭上注意、足元注意を安全目標として活動を終了した。天候の味方もあり、個々の作業単位にチームリーダーを置き、行動管理できた事と大会運営スタッフとの綿密な連携で事故無く安全に完遂できたことに感謝致します。(記 小林 照夫^⑩)



◆ 植樹会場

緑の祭典“かながわ未来の森づくり”2024 in さがみはら、相模原市市制施行70周年記念植樹祭が行われました。開催場所は相模原中央緑地『木もれびの森』です。開発をのがれた雑木林7.3haが住宅地の中にポンとあり、平坦地という事もありお年寄りから子どもまで散歩コースとして森林浴が楽しめる場所として親しまれているようです。

小中学生の植樹はコブシ広場の周辺で行われました。参加されたのは大野台小学校の6年生2クラス40名と、大野台中学校の20名でした。小学生はどんぐりから3年かけて育てたコナラの苗を各自1つずつ、中学生は用意されていたコナラ、クヌギ、ヤマザクラを各自1本ずつ植樹しました。



インストラクターが植樹の手順を説明後、3～4名に1本の唐鍬を使って、事前にたてられていた支柱の場所に植樹をしました。小学生にとって大きな唐鍬は重さもあり掘るのも大変！一所懸命掘り出してみると今度は太い木の根っこも多く根を切るのも大変なようでした。小学生も中学生も虫が苦手な人が多かったようですが、みんなで協力してワイワイ賑やかに作業ができました。小学生は引率の先生、一緒に参加されたご家族、日頃こもれびの森の整備をされているボランティアの方々も協力して頂き無事に植樹ができました。植えられた植樹の前で記念撮影をされているご家族もあり、子どもの成長の記念にもなると喜ばれていました。

最後に記念撮影後、こもれびの森でボランティア活動をしている方から自己紹介と以前のこの森のお話がありました。荒地だった森がこんなに心地の良い場所になったとの事でした。季節により色々な花々も咲く様です。今回の植樹した場所も5年後、10年後に緑豊かになっている事が楽しみです。(記 相澤 恵美利⑤)

一般植樹では、真夏を思わせる日差しの中、事前予約いただいたお客様約400名様がおいでになり、コナラ・クヌギ・ヤマザクラの中から好きな苗木をお選びになり、次々と植えられていきました。ちいさなお子様がいっぱいご家族が多かったのですが、最初は、「まだ掘るんですか…」と疲れがちだった皆様も、だんだん慣れてこれ、お子様がほかのご家族も植えられるなど、めきめき上達されていました。そのうちに、「僕が穴を掘るの!」「うわぁカブトムシの幼虫だ」「ここは父(ちち)の出番でしょ」「水やなくていいのかな?」など、思い思いに土と木とコミュニケーションされている様子は、みどりの祭典にぴったりの姿でした。

最終的に、用意された苗木はすべて植樹され、10年経ったころにはずいぶん頼もしい森になっているはずです!

(記 久慈 真理⑥)



◆ 丸太切り会場 「木育て日記」より 丸太切りは息も切れる

式典会場の一画にテントが18張り広場を囲んでいる。それぞれには体験イベントや自然保護、環境保全に関わる団体のプレートが付けられ、各々が趣向を凝らして興味を引くブースとなっている。そのテント群の片端、緑陰の下に丸太切り。参加者を引きつける物は何もない。受け台となるウマに置かれた丸太、そして鋸があるばかり。

一瞥して通り過ぎる人が続く……………

ふと、「なにをやるの?」と言う好奇の眼差しで歩みを止めた人に時をおかず言葉を。「丸太切りに挑戦しませんか?」わずかに笑みを浮かべコックリ、バッグをおろし手渡した鋸を手にする。50代とおぼしき女性が体験者第1号となる。予想に違いすこぶる調子よく鋸を挽き、小気味よい音を奏で始める。

その様子に親子連れが足を止める。その機を逃さず誘いの一言

「ぼくもやってみようか?」 「うん」

子どもへ利き手を確認、鋸の持ち方、足の位置と姿勢を教え、背中に回り手を添えて鋸を挽く。5回10回と続け「さあ、あとは自分の力でゆっくりとやろう」と手を放す。

参加者は初心者が多いが、ケガ予防を念頭にそれぞれの「丸太切りスタイル」を見守る。

祖母と孫娘、そろいのTシャツを着たグループ6人、中年女性3人連れ、高齢男性、おそろいのコスプレ姿の兄妹とお母さん、ブース担当の時間の空いた5人組婦人……と、丸太切りは続く。諦める人はいない。幾度となく手を休め、腰を伸ばし息を整える。肩で大きく息を吐く人も…。

切り落とした瞬間喜色があふれる。丸太片にゴム印を押し「おつかれさまでした。」の言葉を添えて微笑み返す。

参加者:99名 (大人42名 小学生41名 幼児16名) | 材: 径18cmのスギ、(径25cmのスギは虫食い使用せず)、径12cmのヤマザクラ、8cmのアカメガシワ、6cmのシデ(現地調達) (記 柏倉 紘④)



◆ 自然観察会

午後の自然観察会では、希望した方100名超を数人ずつの班にわけ、各班インストラクターが2名つき、ルートのご案内をしました。ルート上のA~Eのポイントで、木もれびの森のボランティア団体の方に、詳しい説明をしていただきました。スタートのポイントAは、ここももの会の方が担当です。木もれびの森のあたりは、台地にあり水は30mの井戸を掘らないと出てこない耕作に不向きな場所で、耕作地に敷き込む草を刈る「まぐさば」だったということです。大量の草を刈って移動するためにできた道が、自然観察ルートのスタートとなる斜め道ということでした。



ウバユリやフタリシズカなどをみながら斜め道を進みます。ミツバウツギがちょうど花をつけているあたりがポイントBです。高木のエゴノキがあり、花をつける季節ではありませんが、キクザキイチゲの群生地があるということもここ

もの会の担当の方に教えていただきました。午前中に植樹をしたエリアを横目に見ながら、10 年後にはどれくらいの大きさになるだろうと話しながらポイント C に向かいます。パイオニアプラントと呼ばれるアカメガシワの大木と若木があります。若いときには口ウが照り輝いていたけれども、育って口ウが見えなくなったということでした。さらに進み、住宅街のわきがポイント D でした。ここは、2018 年にどんぐりから育てた苗を近隣の小学生と三菱電機社員の方々で植樹したどんぐりの里です。苗が小さいうちは年数回の草刈りが必要で、三菱電機の社員と NPO 法人相模原こもれびのメンバーで草刈りや間伐をして管理をしているそうです。住宅街からまた森に入ると、すぐにポイント E に到着します。ここは「境界木の散策路」で針葉樹が一行に植えられています。土地の所有の境界を示すために植えられた木で、この境界木の右と左で土地の所有者が違ったということです。

ここから森の中道を通り、歩いていくとほどなくゴール地点の中央広場に戻ります。各ポイントでこもれびの森にいつも親しんでいる方からお話を伺い、新緑のこもれびの森をたっぷり楽しむことができました。(記 藤田 あずさ⑦)

(写真 柏倉 紘④、(公財)かながわトラストみどり財団)

<会員コラム> 第 7 回草摘み料理で春を食べよう

ゴールデンウィーク初日の 4 月 27 日、丹沢登山の玄関口である大倉の「どんぐり山荘」をお借りして森林インストラクター有志主催「第 7 回 摘み草料理で春を食べよう」の会が開催されました。

当日の参加者は、1 期から 17 期までの有志 10 名(菊地①、斎藤武⑥、村井⑨、長尾⑩、園田⑬、江頭⑬、源島⑬、斎藤夏⑬、水野⑭、内田⑰)、(公財)かながわトラストみどり財団 藤本さん、長尾さんのご主人、竹細工のプロで常連の永島利子さん(92 歳)、キノコ、山菜に詳しい小林国義さんと長女の中村澄子さんの 15 名です。この活動は森林インストラクター 9 期有志が立ち上げたもので、第 1 回から 16~17 年が経ち、今回は第 7 回目の開催です。

開催日前日は、参加者有志で摘み草を行い食材を準備しました。(アザミの新芽・タラノ芽・ミツバ・サンショウ・ミズ(ウワバミソウ)・カキドオシ 等)

開催日当日は、それぞれ自家用車、バス、タクシーで「どんぐり山荘」に集合。その後、大倉周辺の摘み草に出発しました。前日まで暖かい日(暑い日!?) が続いており、当日は曇天で湿度が高く雨対策とヒル対策を万全に行いました。前回摘み草をした場所へ向かいましたが、今年は想定通りとはいかず、野草に詳しい長尾さんのアドバイスを得ながら食材となる野草(ヨモギ・カラスノエンドウ・アザミ等)を摘みました。もちろん食べられる部分を食べられるだけ…です。また「どんぐり山荘」ご主人のご厚意で山荘の庭に満開だったフジの花を食材としていただきました。(ありがとうございます!)

前日・当日の摘み草の甲斐があり、多種の野草が集まりました。

当日の摘み草の後、早速料理を開始しました。ノビル入り餃子、ヨモギ団子はテーブルを囲み数人で作成(ノビル入り餃子は 100 個超作成)、天ぷらは園田さんがすべて担当、その他お浸しや和え物などを作りました。手作りこんにゃくの差し入れもありました。

食材を無駄にしないよう余った材料を組み合わせで新たな 1 品も出来上がりました。

餃子の焼き上がりに一喜一憂し、そして皆さんで声をかけながら準備するその様子はインストラクターらしく見事なものでした!

お昼を少し過ぎた頃、全ての料理が完成し、宴の開始です。斎藤(武)さん手作りの箸置き、村井さん作成のランチョンマットと箸袋は参加者をほっこりさせてくれました。美味しい日本酒を持ち寄った自家製の果実酒を飲みながら、どの野草も美味しくいただきました。フジの花の天ぷらは花の部分がほんのり甘く感じられとても美味しかったです。摘み草の時の様子や料理の話で盛り上がりました。自然の恵みに感謝し、春のごちそうで皆さんの笑顔あふれる楽しい時間となりました。

摘み草は当日まで食材が決まらず、何が摘めるか、どんな料理ができるか・・・ドキドキ♪ワクワク♪するのもこの会の醍醐味です。

来年の春、また美味しい野草を摘み、会が開催できることを期待します。(記 内田祐子⑰ 写真 村井正孝⑨ 内田祐子⑰)



活動短信

今回の掲載はR6年4月5日からR6年5月25日分です。寄稿頂いた中には、紙面都合や寄稿タイミングで次号以降の掲載になるものもあります。

7月(文月)(旧暦6月水無月)の
二十四節気と雑節、鳥こよみ

二十四節気：小暑 7/6 大暑 7/22

雑節の半夏生は田植えを終わらせる農事の節目。「半夏」はカラスピシヤクのことで、これが生え始めるころが田植えを終わらせるタイミングだったそうです。

鳥こよみ：カルガモ親子の引っ越しがニュースに登場する季節。懸命に親鳥の後について泳ぐ、ほわほわの雛鳥の様子は愛らしくもあり、逞しくもあり。通勤中に近所の川で見かけるとちょっと気分がカルくなります。

活動短信への投稿概略フォーマットと略語の説明
ページレイアウトは気にせずベタ書きで結構です。
(できれば Word、メール直筆でも OK。Excel はできるだけ避けてください。改行等の処理に手間を要しますので写真もあれば添付ください。

◆ 活動団体・活動名 等

日 日付:令和x年x月x日(曜日)できれば時間と天気も

場 場所 (例:相模原市緑区 長竹承継分収林)

参 参加者 人数

県 例 神奈川県 環境農政局 緑政部

水源環境保全課 水源の森林推進グループ

財 (公財)かながわトラストみどり財団、**看** 看護師

ス 例 小田原市森林組合XX様

例 川崎市公園緑地協会・XX様

イ インストラクター① (○数字:期) **研** 研修枠

以下、本文を400字前後を目安として執筆ください

リーダーは責任を持って執筆者の選択と執筆後のチェックをお願いします。(執筆者名もお忘れなく!!)

活動終了後の速やかな投稿をお願いいたします m(_)_m

◆ 株式会社日新様 新入社員研修

日 令和6年4月5日(金) 10:30~15:00 小雨

場 やどりき水源林

参 株式会社日新 新入社員 54名

人事部 瓜生様 藤田様 平井様 安西様

県 村松様 星様

イ L 上宮田⑪、井出①、佐藤①、水口⑨、松本⑪、古舘⑬、牧石⑭

天気予報ではここしばらくは菜種梅雨とのこと。この日も曇りの予想に反して一日中細かい雨が降り続けました。このため、予定していた間伐体験は取りやめて、午前中は自然観察(林道コース、Bコース)、午



後は丸太切り、水源涵養実験、水の音体験、滝郷の滝見学を実施しました。

雨にけぶる水源林は、神秘的な雰囲気漂い、静けさと活気が同居しています。雨に濡れた満開のサクラは普段と違った表情を見せ、ミソサザイの鳴き声がこだまし、水溜まりではアズマヒキガエルが産卵し、運が良いグループはモモンガが巣穴から顔を出しているのを見ることができました。

丸太切りを頑張り、水源涵養実験で森林の役割を実感し、水の音体験では今まで聞いたことがない音を楽しむなど、5日間の新入社員研修の締めくくりとして、やどりき水源林での体験は、きっと彼らの心の中に、節目の日々の貴重な思い出として残るでしょう。

何十年前?の自身の新入社員研修の頃に思いをはせ、彼らのこれからの人生に幸あれと祈りつつ、帰りのバスを見送りました。

(記・写真 井出 恒夫①)



◆ アコム株式会社様 アコムの森活動 除伐(竹)

日 令和6年4月6日(土) 10:00~14:30 曇り

場 21世紀の森(南足柄市)

参 21名(大人21名)

県 水源環境保全課 藤原様、黒田様

イ L 森本⑰、西出⑱、松浦⑱、鈴木(秀)⑰

2024年度の「アコムの森活動」は回数を増やして活動予定とのことで、新調した赤色の「アコムの森」ベストを、参加者の皆さんが着用し、さらにパワーアップした活動開始となりました。活動開始を祝うかのように、満開の桜が出迎える中での開会式では、アコム株式会社様のサステナビリティ基本方針を復唱され、活動への意識を高めていました。初の竹の除伐作業でしたが、作業手順を丁寧に説明し、竹の幹や枝の集積もキレイに作業いただきました。作業を進める中で自然とチームワークが生まれ、竹の伐採と枝払いを流れるように連携して作業されていました。作業途中でヤマビルも登場し、恐る恐る観察されている姿は印象的でした。間伐作業とは異なり一人一人が絶



えず作業していること、かつ、竹の除伐前後の景色の違いで成果が目に見えて分り、参加者の皆さんはちょっとした疲労感と大きな達成感を感じていました。



(記・写真 森本 利弘⑰)

◆ チューリッヒ保険会社様

つる切り・自然観察とクラフト作成

日 令和6年4月14日(日) 10:00~14:00 快晴

場 やどりき水源林

参 50名 (うち小人3名)

県 環境農政局緑政部 水源環境保全課 武田様、黒田様

イ L 牧石⑭、西出⑫、鈴木⑭、岡村⑯、田島⑰、野口⑰

チューリッヒ保険会社が神奈川県での森林再生パートナーに参加して初めての森林活動ということで、参加者の森林保全に対する意欲 期待がひしひしと伝わる開会式でした。自社の立て看板の前で記念写真撮影を行い、各グループに分かれて活動を開始しました。

森林保全(ツル切)班は、やどりき水源林の最奥の平成20.21の成長の森にて活動を行いました。経路は途中から急な山道であったが、ミツマタの花が歓迎してくれました。作業は直径2cm~3cmの太さのツルを剪定バサミもしくは枝打ち鋸を用いて地際で切断すると同時に木に絡まったツルの切断を行い除去しました。ツル以外にも立ち枯れ樹木等の除伐を行った結果、エリアは明るくなり、且つ、地面に光が届くようになりました。



自然観察班は、立て看板の前の水たまりのアズマヒキガエルの卵塊を観察して、「これはなんだ?へビかと思った?」等わいわい話をしながらBコースの散策へ行きました。この時期としてはとても暑い中、沢沿いの溪流のせせらぎを聞きながら、気持ちよく散策できました。ヤブムラサキの新芽はようやく芽吹き始めた感じでしたが、ミヤマシキミの白い花はたくさん咲いていて参加者を歓迎してくれました。その後広場に戻り、ヒノキとカツラの木の丸太切りからネームプレートやキーホルダー、コース

ター等の作成を行いました。最初はノコギリの使用に戸惑っていましたが、慣れてくると我も我もとクラフト作りは大人気でした。

(記 岡村 寛⑯、写真 鈴木 淳⑭)



◆ 第1回 県民参加の森林づくり (除伐 竹)

日 令和6年4月18日(木) 9:30~12:30 曇り

場 茅ヶ崎市芹沢(県立茅ヶ崎里山公園)

参 45名

財 古舘様、藤本様 看護師:増田様

ス 神奈川県公園協会 西村様

イ L 西岡⑭、井出①、柏倉④、佐藤⑤、斎藤⑧、小笠原⑩、山口⑪、岩田⑭、小松⑭、飛田⑮、小林⑯、松浦⑯、兵頭⑰、八木⑰、鈴木⑰

茅ヶ崎里山公園にて、竹林の除伐作業が行われました。本来は17日に予定されていましたが、天候の都合により予備日の18日の開催となりました。その影響からなのか?予定では参加者が65名でしたが、当日は45名の参加者になってしまい非常に残念でした。

まずは、パークセンター前にてオリエンテーションと準備体操を行い、班ごとに除伐現場へ移動。途中、自然体験活動に来ていた学生たちとすれ違った時に、元気に『おはようございます』と多くの学生さんが挨拶をしてくれて、参加者の方々は活動前に沢山の元気を貰っているようでした。

現場は班により異なり、真竹や孟宗竹、平地や斜面、竹林として残す場所や皆伐する場所等、その場所その場所で作業内容が多少違っていました。

今回は、幾度となく参加しているベテランの方が多く、とても心強かった。作業終了後の除伐された竹等もとても綺麗に整頓されていて、流石の一言でした。



終了後の参加者からは、天気も曇りで暑くなく調度良かった…(今回初参加の方は)とても楽しかった、また来たい…やっ
とエンジンが温まったのに終わってしまったと名残惜しむ方や、範囲をもう少し明確にした方がよい等とご提案される方もいらっしゃいました。



(記 鈴木 強史⑩、写真 西岡 一郎⑭)

◆ 日揮グループ様 水源林保全活動

日 令和6年4月27日(土) 9:00~13:00 小雨後曇り
場 塚原水源林 日揮グループ癒しの森
参 大人7名、子供1名
県 水源環境保全課 村松様
イ L岩田⑭、牧石⑭、大谷⑰、広浜⑰

塚原水源林は小雨模様、ウグイスのさわやかな囀りを聞き、新芽や新葉の様々な色の新緑やウワミズザクラの白い房状の花を味わいながら天気の良い転を期待し活動をスタートしました。



日揮様は予定より早く到着され道具の準備を先に済ませ予定通り9:00に駐車スペースで開会式を開始、日揮グループ様担当の坂井様、水源環境保全課の村松様の挨拶、体操、装備装着、道具使用方や安全上の注意点等を説明し下刈り作業エリアの日揮グループ癒しの森に向かいました。

下刈り作業エリア内で下刈り作業のデモ、注意点等改めて説明し9:30に下刈り作業を開始しました。

斜面を下方に向かって一列で侵入し、各自担当エリアに配置、横方向(水平方向)に下刈り作業を進めました。

皆作業は手際良く、見通しが利かなかったエリア内が



徐々に見渡せるようになり植栽木が立派に成長している姿を1本ずつ確認しながら作業は順調に進みました。途中4回の大

休憩を挟み作業終盤では仕上がりつつあるエリア内を眺め、今回は人数が少なかったためエリア全域は完了でき



ないと思った等の発言もありましたが、苦労を労い合い、達成感を味わい、将来の森の姿や補植等今後の活動も話し合いながら夢を語る楽しい時間となりました。

11:55にエリア全域の下刈りを終了し、駐車スペースに戻り道具を清掃し倉庫に収納した後、輪になって昼食を取りました。充実した活動を振り返りながらの情報交換、意見交換の場となりました。



12:50に閉会式を行い、13:00に塚原水源林を後にしました。



(記 岩田 典義⑭、写真 村松様(県) 野村様(日揮))

◆ 三菱化工機(株)様 新入社員の職場実習

日 令和6年5月10日(金) 10:30~14:00 晴
場 やどりき水源林 成長の森・H21-3
参 13名
県 神奈川県 環境農政局 緑政部 水源環境保全課 黒田様 山田様
イ L牧石⑭、西出⑰

緑が鮮やかな水源林の森の上に美しい青空が広がる絶好の活動日和となりました。スタッフと新入社員の13名の方は、新入社員の研修の一環として、初めての経験となる森林整備に挑戦しました。

初めの会、準備体操、道具の装着を終えた後、2班に分かれて片道30分ほどのミニ登山で成長の森に到



着しました。現場は15年ほど前に植樹された広葉樹林で、モミジやコナラが順調に育っているものの、成長を妨げる雑木やツルが目立つ状態でした。近接作業にならない様に適度な間隔を保ちながら、また、熱中症にならない様に水分補給に気を付けながら、ツル切りや除伐を行いました。予定通り、約1時間の作業を終えて、見通しの良くなった森を眺めて、皆さん、成果に満足されている様子でした。帰路では、若い方に少しでも自然に興味を持って頂ける様にフタリシズカやマムシグサなどの話をしながら戻りました。所々でヤマビルを見かけましたが、まだ朝夕の温度が低いと防虫スプレーのおかげでしょうか、被害もなく無事に作業を終えることができました。慣れない作業だったと思いますが、皆さん、お疲れさまでした。

(記・写真 西出健一⑫)

◆ ENEOS 株式会社様 ENEOS みらいの森

下刈り、竹林整備、自然観察

日 令和6年5月18日(土) 10:00~12:00 晴れ
場 県立21世紀の森(南足柄市内山)
参 115名(大人108名、子ども7名)
県 水源環境保全課 村松様、町田様
イ L高谷⑬、井出①、森本⑤、山崎⑦、小笠原⑩、杉崎⑩、山口⑪、西岡⑭、石垣⑮、岡村⑯、久慈⑯、松浦⑯ 小国⑰、藤田⑰、三浦⑰

季節外れの暑さでしたが、13班に分かれて県立21世紀の森で活動していただきました。下刈り班は、平成29年~令和元年に植栽した無花粉スギの下草を大鎌で刈る作業でした。急斜面で大変な労力ですが、これは人工林を育てる上で植栽して最初に行う大切な作業です。竹林整備班は、枯れた竹の処理や生竹の伐採・枝払いなど、ノコギリと剪定バサミを使って1本ずつ丁寧に刈り進んでいただきました。この場所は皆伐が完了した後に多様な広葉樹を植えることを検討しているそうです。自然観察班は、内山林道の坂を歩きながら、カシ、ミズキ、ウツギ、トチノキなど樹木の花や野鳥のさえずりなど楽しんでいただけたと思います。



(記、高谷 秀史⑬、写真はENEOS様より提供)

◆ 東芝プラントシステム(株)様

やどりき水源林活動

日 令和6年5月18日(土) 9:30~14:30、快晴
場 足柄上郡松田町 やどりき水源林
参 参加者 14名(女4、男10)
県 水源環境保全課 藤原様、星様
イ L上宮田⑱、松本⑱、西出⑲

朝から快晴・湿度良、しかしこの季節にしては気温の高い日となりました(昼頃には下界は夏日/やどりきは約3℃低いです)。東芝の皆さんはそんな中、寄バス停からやどりき水源林、そして20・21年成長の森まで往復歩きの活動です。

心身ともに現役のバリバリの皆さんの活力には唯々感服。我々インストの男性はへばり気味で(女性3人(インスト+県職員)はへばっていませんでした)



開会式~オリエンテーションを集会広場でを行い、林内整備、蔓切対応のヘルメット、剪定鋏、鋸の道具を装着し、林道コースから成長の森へ自然観察をしながら歩を進めます。所要時間35分、途中水分補給と休憩をしながら作業場所の成長の森21-5に到着。作業前の薄暗い森を見て頂き、安全に作業を進めることをご案内し二班に分かれ作業を開始しました。日当たりの良い場所は木だけでなく蔓も育っていました。特にマタタビの蔓が群落を成しており、苦戦となりましたが、全員協力体制で、覆いかぶさっていた蔓の除去をすると森の中に光が差し木々がのびのびと深呼吸を始めた様に感じました

昼食後は、コースター作りです(丸太切、紙やすりをかけた後絵付)を行い、前回体験できなかった



方には滝郷の滝でマイナスイオンを浴びて頂きました。新松田では懇親会を開きビールを頂く(浴びる)そうです。3時間近くも歩いた体力・気力・知力抜群の東芝の皆さん

の活動でした。

(記 松本 保⑩、 写真 上宮田 幸恵⑩)

◆ ネットワーク活動 令和6年度

緑のレンジャー講座 第1回

日	令和6年5月18日(土)	10:00~12:00	晴れ
場	鎌倉中央公園管理事務所	2階研修室	
参	大人19名		
ス	(公財)鎌倉市公園協会	千田様、西野様	
イ	L 國弘⑭		

公益財団法人 鎌倉市公園協会では緑の機能、樹林地の現状などを学ぶ講座を実施しています。市内で森の保全ボランティア活動を希望する方々を対象としています。

1. オリエンテーション

公益財団法人 鎌倉市公園協会 業務課 千田係長が講座の年間の連絡事項について説明されました。

2. 講義：森林のはたらき-森林の機能と保全管理の必要性-

下記の内容についてインストラクターが講義をしました。

- (1) 森林の生態：階層構造および植生の遷移
- (2) 森林の機能：地球温暖化の緩和機能、洪水の緩和機能、水質の浄化機能水資源の貯留機能、生物多様性を視野に入れた自然の見方
- (3) 森林の保全を支える施策・計画：かながわ森林再生50年構想、水源環境保全税と森林環境（譲与）税、鎌倉市緑の基本計画、鎌倉市森林の整備計画
- (4) 鎌倉市緑の基本計画に基づく「緑の有する7つの機能」から：「安全安心をもたらす」、「環境負荷を和らげる」、「生き物を育む」。当講座のフィールドとなる鎌倉中央公園と散在ガ池森林公園の将来像と整備方針の確認。
- (5) 保全管理：保全管理の基本、伐採木の処理、草刈り、順応的管理、保全活動のための自然観察
- (6) 安全対策：天候等による活動の中止・中断の判断、森林保全活動の服装、予測できる危険（例）、スズメバチとアシナガバチ、ナラ枯れの機構と安全管理

皆さん熱心に講義を聴かれていました。森の保全活動の背景に多くの事柄があることが新鮮であったとの声をいただきました。

3. 野外観察：樹木を中心とした公園の自然を見る

鎌倉中央公園内にて、鎌倉市の潜在自然植生であるカシ類・スダジイ・タブノキや混交林の姿を確認しました。樹林内では植生から林内環境を考える視点を話しました。ナラ枯れの被害木を観察し、アズマネザサ刈りや外来種の除去方法のポイントも伝えました。神奈川県西部山地では多く見られ市街地では少なくなったオニシバリ等、様々な植物や獣道などを見て歩きました。

受講生の皆さんは鎌倉の植生に興味津々でした。見慣

れた草花に多くの外来種があることにも驚いていました。第3回の講座「公園・緑地の巡回」につながる講義と野外観察になることを期待して終了しました。

(記 國弘 明子⑭)

◆ アコム様 21世紀の森活動

日	令和6年5月19日(日)	8:30~14:00	曇り時々雨
場	県立21世紀の森		
参	18名		
県	山田様、星様		
イ	L 鈴木秀⑰ 西出⑱ 森本⑰ 藤田⑱		

午後から雨という天気予報で、時折小雨がぱらつく曇り空のもとでの作業となりました。

アコム様の活動としては4月に引き続き竹伐の作業となります。初めての方から、何度も参加して下さり経験豊富なベテランの方まで様々です。3班に分かれ、各班ごとに作業をしました。3班は6名を3名ずつのチームにわけて班の担当エリアの伐採を行います。ベテランの方が初めての方をサポートしたり、それぞれができることを分かち合いながら進めました。



午後にも引き続き竹伐作業ですが、今度は班の位置を入れ替えて午前中とは違うエリアを担当します。午後の作業を終え、かなり見通しがよくなった竹林を背景に参加者のみなさんで記念写真を撮影しました。達成感がにじみ出る素敵な笑顔のみなさんでした。

県の計画としては、このエリアは竹林の除伐を行った後、広葉樹を植樹し、多様な樹種の広葉樹林を散策できるようにするというので、数年後が楽しみです。

午後の作業を終え、かなり見通しがよくなった竹林を背景に参加者のみなさんで記念写真を撮影しました。達成感がにじみ出る素敵な笑顔のみなさんでした。

県の計画としては、このエリアは竹林の除伐を行った後、広葉樹を植樹し、多様な樹種の広葉樹林を散策できるようにするというので、数年後が楽しみです。



(記・写真 藤田 あずさ⑱)

◆ ざまみどりいっぱいデー
竹材裁断とクラフト体験会

日	5月19日(日) 10:00~15:00 曇後雨
場	座間市芹沢公園 管理棟内多目的広場 (座間市栗原)
参	46名(15家族)
ス	座間市役所公園緑政課 武田様、甲山様、加賀谷様
イ	L末原⑮、上田⑩

昨年まで「緑化祭り」として親しまれてきた座間市のイベントが「緑化の推進から緑の保全」というコンセプトのもと「ざまみどりいっぱいデー」という名称にリニューアルして開催されました。会場では、植樹式やポット苗の販売、パネル展示など様々な催しが行われる中、管理棟内多目的広場では事前申込みされた参加者(5才から12才の子供含む家族の皆さま)を対象に、竹材の裁断とクラフト体験会が行われました。

参加者の多くはノコを使って竹を切ることは初体験のようでしたが、始まるとすぐに要領を得、その後は親子で行う共同作業を楽しんでいました。切った材はクラフトの材料として、磨いて穴を開け、紐やビーズを通したりするのですが、自分なりのオリジナル品にするため、色々なアイデアを試し熱心にデコレーションに取り組んでいました。その他にも、予め用意された押し葉から好きな葉を選んでラミネートして作る押し葉しおり、シュロの葉を使ったシュロバッタ作りにチャレンジする親子もおり、色々な形でクラフトを楽しんでいました。イベントは午前の部と午後の部に分かれて行われ、延べ15家族46名の方が参加されました。

途中座間市のマスコットキャラクターの「ざまりん」も会場を訪れイベントを盛り上げてくれました。多くの参加者をご満足された様子で、短い時間でしたが緑に親しむイベントとして充実した一日となりました。

(記・写真 末原 興一⑮)



◆ アマノ株式会社様 21世紀の森
自然観察会・環境教育・丸太切り・工作づくり

日	令和6年5月25日(土) 10:00~14:00 曇り
場	21世紀の森(南足柄市)
参	29名(うち子供6名)
イ	L西岡⑭、松本⑪、西出⑫、牧石⑬、大谷⑰

前日の暑さで心配してたところ、空には雲がかかり暑くもなく朝から比較的快適な良い天気の中、アマノ様29名(内、お子様6名)の活動が始まりました。

内山林道をゆっくりと登りながらの自然観察会です。水を入れたペットボトルにムクロジの実を放り込み作った石鹸水、ネズミのなかまが食べたようなオニグルミの殻、手でさわってみてやわらかさとチクチク感のしたヒノキとスギ、サッカーボールのようなヒノキの球果を拾ってうれしそうなお子様たち、なんだこれ?と見つけたスカシダワラ、などと目をキラキラして楽しんでくれたようです。倉庫前に戻って、パパやママと一緒に始めて使ったノコギリでカツラの丸太をなんとか伐り終え作ったコースター。

午後は工作づくりです。トントンと音を響かせながらトンカチとクギとボンドを使って一時間ほどで小物入れ



やミニチュアなど作り上げ、さらにペインティングと、とっても楽しい一日を楽しんでいただきました。

(記 大谷 雅彦⑰、写真 西岡 一郎⑭)



人も自然も
いきいき 丹沢

丹沢の自然再生に取り組む 丹沢大山自然再生委員会の
ホームページをご覧ください。

<http://www.tanzawasaisei.jp/>

やどりき水源林ミニガイド

「やどりき森の案内人」

毎週土曜・日曜の午前10時と午後1時から「NPO法人かながわ森林インストラクターの会」会員が水源林をご案内します。やどりき水源林ゲート前までお越しください。

「やどりき水源林ニュース」

6月号は「なつむし色したるもすずしげなり」です！



森のなかまは過去号もご覧になれます。

(ホームページ) <https://www.forest-kanagawa.jp/3kiroku.html#kiroku01>
(HP担当：森本 利弘)

◇ 森のなかま原稿募集 ◇

会員読者の皆様から広く募集しています。原稿は随時受付けています。

<広報全般についてのお問い合わせ>

河西 静夫

Mail: skasai0618@gmail.com

Tel : 090-1227-6209

<電子配信会員向け担当>

小池 宗子

Mail: muneko-sakura@outlook.jp

<メール・手書き原稿送り先>

【本誌】河西 静夫

Mail: skasai0618@gmail.com

【別冊】小国 一男

Mail : ka-oguni@ab.auone-net.jp

◇ 編集後記 ◇

★ 地元の茶園で新茶を買い求めました。パッケージには、先代の名前である「聴雨」とありました。外遊びに、鳥の鳴き声や雨音を聴きながら歩くサイレントウォークがあります。昔も今も、遊び心は一緒ですね。最近だとゲリラ豪雨の音を聴くのも一興なのでしょうかね。

(小池む)

★ 部数は少ないのですが、会報を自前のプリンターでカラー両面印刷しています。表面を終え裏面を印刷していると、印刷ズレが発生することが多々あります。どうやら紙送りがうまくいっていないようで、ローラを清掃すればいいのですが、給紙トレイの奥の狭いところにあります。綿棒などを使ってローラをゴシゴシしてみました、くるくる回ってまいち。そこで軍手をはめてローラを触るようにするとホコリがとれてる実感があります。結果、何とかうまく印刷できるようになりました。(小国)

★ 梅雨に入ったはずですが、雨があまり降りませんね。先日は、あわや猛暑日の天気で、体がついていきません。

公園の田んぼをやっている私としては、昨年の猛暑少雨の悪い記憶が頭をよぎります。(黒川)



緑の募金キャラクター
どんぐりくん・どんぐりちゃん

かながわ森林インストラクターの会は『緑の募金』の支援団体としても取り組んでいます。全国で5番目/NPO法人で初めて委嘱されています。

かながわすくちゃん Twitter は下記URLで見ることができます。



https://twitter.com/kanagawa_sizuku



やどりき水源林問合せ：(公財)かながわトラストみどり財団

TEL : 045-412-2255 / FAX : 045-412-2300

<https://ktm.or.jp/> Mail: midori@ktm.or.jp

かながわ森林インストラクターの会

<https://www.forest-kanagawa.jp/> Mail: k-inst0981@friend.ocn.ne.jp

年間通読のお申し込み

「森のなかま」年間通読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込み下さい。

郵便振替口座 00230-0-2454 かながわ森林インストラクターの会
宛まで2000円をお振込み下さい。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記して下さい。振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。

編集人： 河西 静夫

広報部： 黒川 敏史、松本 保、
笠原 かずみ、長尾 晴子、
小林 照夫、小国 一男、
小池 宗子

支援： 大原 正志、吉田 郁夫